

# ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニュースレター（日本語版）, No.90, February 2016

---

---

ARSC 事務局：〒162-0805 東京都新宿区矢来町 126  
NITTO ビル (株)メッツ研究所内  
応用地域学会 文部科学省学会コード=10023  
会長：文 世一 担当：宮本成雄  
TEL: (03)5227-7804  
FAX: (03)5227-7807  
E-mail : clerk@arsc.org

---

---

主要項目： 2016・2017 年度 運営委員選挙  
第 29 回研究発表大会報告  
第 30 回研究発表大会のご案内  
第 6 回アジア地域科学セミナーのご案内  
2015 年度坂下賞  
2015 年度応用地域学会論文賞  
選挙内規改正  
2016 年度会費納入のお願い  
総会報告

---

---

## 1. 2016・2017 年度運営委員選挙

選挙管理委員 大西 正光 (京都大学)  
伊藤 亮 (東北大学)

ARSC 会則第 8 条および内規 I にしたがって、第 14 期(2016 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日まで)運営委員の選挙を行います。

投票は、別途郵送の選挙葉書により、3 名連記の投票をお願いいたします。投票の締め切りは、2016 年 3 月 11 日(金) (当日消印有効) いたします。

(別添の運営委員選挙の案内に従って投票をお願いします。)

この運営委員選挙の管理委員は、応用地域学会選挙内規 II 第 3 条に従い、会長指名により、京都大学の 大西正光 会員と東北大学の 伊藤 亮 会員が務めます。

## 2. 第29回研究発表大会報告

---

大会実行委員長 直井 道生 (慶應義塾大学)

### 1. 大会概要

第29回応用地域学会東京大会は、2015年11月28日(土)、29日(日)の2日間にわたり、慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催されました。大会期間中には、個別の研究発表セッションにおいて各会員の研究成果が報告されるとともに、特定セッション、シンクタンクセッション、チュートリアルセッション、坂下賞受賞講演、学会総会などが開催されました。開催期間中は好天にも恵まれ、約220名の参加がありました。大会の実施・運営は、私と河端瑞貴先生(慶應義塾大学)、松浦寿幸先生(慶應義塾大学)、隅田和人先生(東洋大学)をメンバーとする大会実行委員が担当しました。また、研究報告のプログラム編成については、内藤徹先生(徳島大学)を委員長とする7名のプログラム委員が担当しました。

### 2. 研究発表大会

研究発表大会では、計5つのセッション会場が設けられ、2日間で計74編の研究論文が報告されました。一般セッションでは、「立地分析」、「都市経済」、「空間経済」、「都市と交通インフラ」、「航空」、「住宅・不動産」、「交通と立地」、「都市システム」、「ネットワーク分析」、「空間計量」、「自然災害と地域」、「アジア地域の諸問題」、「サプライチェーン」などのセッションで研究成果報告が行われました。Early Birdセッションには、例年を上回る申し込みがあり、大学院生による16編の研究報告が行われました。

### 3. チュートリアルセッション

今大会では、学会における新たな取り組みとして、専門家を対象に最新の分析手法の紹介と解説を行う、チュートリアルセッションを実施しました。今回は、「都市・地域経済分析におけるGISと空間データの活用法」と題して、河端瑞貴先生(慶應義塾大学)による報告が行われました。

本セッションでは、空間データの視覚化、空間データの加工・作成、空間データの分析という各点について、実際の分析への応用を念頭に置いた解説が行われました。さらには、都市経済学分野で頻繁に用いられるヘドニック分析を事例として、実際にPCを利用してGISのデモンストラーションが行われました。

### 4. 坂下賞記念講演

2014年度の坂下賞受賞者である円山琢也先生(熊本大学)より、「交通行動調査手法と交通政策分析技術の展開」というテーマでご講演をいただきました。本講演では、円山先生のご専門である交通計画の分野における最新の研究成果について、交通実態の調査方法と交通政策の分析手法の両面に焦点を当てた解説・紹介が行われました。

交通実態の調査に関しては、スマートフォンを利用した新たな調査方法の活用について、具体的な取り組みである「熊本都市圏PT(パーソントリップ)調査」が紹介されました。

一方、交通政策分析に関しては、次善混雑課金の課金方式、課金領域、課金レベルをどのように設定すべきかについての報告がなされました。具体的には、エリア課金とコードン課金の特性を評価するための新たな理論モデルを提示するとともに、実際の都市圏に応用した場合の比較、最適な制度設計の在り方について、ご報告がなされました。

## 5. 総 会

坂下賞受賞講演の終了後、2015年度の学会総会が開催されました。総会では、2015年度の活動報告および学会活動方針、会員異動の現状、2014年度決算および2015年度予算の報告が行われ、いずれも承認されました。

続けて、2015年度の坂下賞が、中島賢太郎先生（東北大学）に授与されることが報告されるとともに、その授賞式が執り行われました。受賞理由は、歴史データやネットワークデータなど、ユニークなデータを用いて日本の空間経済学の分野において希少である実証研究で中心的な貢献を果たすとともに、これまでの研究成果から地域政策に多くの含意を導出してきたことによるものです。また、2015年度の応用地域学会論文賞が河端瑞貴先生（慶應義塾大学）による研究論文「Childcare Access and Employment: The Case of Women with Preschool-Aged Children in Tokyo」(Review of Urban & Regional Development Studies, Vol.26 No.1(March 2014) 掲載論文) に対して授与されることが報告され、授賞式が執り行われました。本論文は、東京都区部における未就学児童保育施設需給の空間的ミスマッチと、それが母親の就業性効率に与える影響について分析したもので、女性の就業促進環境の改善という社会的な要請の大きい政策を考えるうえで有用な論文となっていることが評価されました。

最後に、第30回研究発表大会が、2016年11月26日（土）および27日（日）の日程で、神戸大学にて開催されること、および第6回アジア地域科学セミナーが2016年9月24日（土）～26日（月）の日程で、東北大学において開催されることが報告されました。

### 3. 第30回研究発表大会のご案内

---

ARSC 事務局

2016年度のARSC研究発表大会は、神戸大学が開催校となり、大会実行委員長浜口伸明教授を中心に、下記要領にて実施いたします。奮ってのご参加をお願い申し上げます。

日 程：2016年11月26日（土）、27日（日）

（総会、懇親会は11月26日を予定）

会 場：神戸大学六甲キャンパス

発表申込み〆切：2016年9月初旬（予定）

論文提出〆切：2016年10月下旬（予定）

お問合せ：ARSC事務局([clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org))

（発表申込先および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS 次号（6月発行予定）、メーリングリスト、ホームページ(予定)で、ご案内していきます。）

### 4. 第6回アジア地域科学セミナーの開催案内

---

ARSC事務局

第6回アジア地域科学セミナーは、2016年9月24日（土）～26日（月）、応用地域学会の主催で、日本の東北大学（仙台、青葉山キャンパス）で開催されます。詳細は、ARSC ホームページ(<http://www.arsc.org/>)の第6回アジア地域科学セミナー「Call for Papers」をご覧ください。

<開催概要>

\*開催日；2016年9月24日（土）、25日（日）、26日（月）

（最終日は、エクスカージョンを予定）

\*参加申し込み・アブストラクトの提出締切

；2016年4月30日

\*発表論文の提出締切

；2016年8月31日

\*参加申込・提出先メールアドレス；[seminar2016@se.is.tohoku.ac.jp](mailto:seminar2016@se.is.tohoku.ac.jp)

\*参加費；一般15,000円 学生7,000円

（エクスカージョン参加は、3,000円追加）

問い合わせは、下記をお願いいたします。

横井 渉央 ([yokoi@se.is.tohoku.ac.jp](mailto:yokoi@se.is.tohoku.ac.jp))

張 陽 ([zhang@se.is.tohoku.ac.jp](mailto:zhang@se.is.tohoku.ac.jp))

## 5. 2015 年度坂下賞 (Sakashita Prize)

2015 年度坂下賞選考委員会 委員長 浜口 伸明(神戸大学)

2015 年度 坂下賞 は、東北大学大学院経済学研究科 准教授 中島賢太郎氏に、授与することに決定した。

### 授賞理由：

中島氏は、これまで歴史データやネットワークデータなど、ユニークなデータを用いて日本の空間経済学の分野において希少である実証研究で中心的な貢献を果たしている。これまでの研究業績は、10 編以上の国際誌および国内誌に査読論文として掲載され、その研究成果から地域政策に多くの含意を導出している。

例えば、2008 年に *Journal of the Japanese and International Economies* で出版した論文では第二次大戦後の朝鮮の日本からの分離独立を自然実験として、これが日本の経済活動の空間的分布に与えた影響を分析することで、市場アクセスが地域経済に正の役割を果たすことを示した。また、2014 年に *Regional Science and Urban Economics* で出版した論文では、近代日本の製糸業マイクロデータを用いることで当時の製糸業集積地における生産性の高さが、集積の技術的外部効果ではなく、競争による淘汰効果によるものであることを示した。近年は、ネットワークデータを用いた分析を中心に行っており、2015 年に *Journal of Regional Science* で出版した論文では、東日本大震災後にサプライチェーン・ネットワークが製造業事業所の復旧を助けた効果を見出している。2014 年に *Journal of the Japanese and International Economies* で出版した論文では、国内取引ネットワークが日本企業の海外工場立地選択に影響を与えていることを明らかにしている。

また、中島氏は近年毎年報告者や討論者として研究報告大会に参加しているのみならず、運営委員やプログラム委員を務めるなど、学会への貢献は大である。よって 2015 年度坂下賞を中島賢太郎氏に授与することとする。

### 2015 年度 坂下賞選考委員会

委員長 浜口 伸明 (神戸大学)  
委員 曾 道智 (東北大学)  
委員 多々納 裕一 (京都大学)  
委員 文 世一 (ARSC 会長)  
委員 安藤 朝夫 (ARSC 副会長)

坂下賞の表彰は、11 月 28 日の応用地域学会総会の中で行われ、中島賢太郎氏には、文 世一会長から、表彰状 (盾) と金一封が授与されました。

## 6. 2015 年度応用地域学会論文賞(Best Paper Award of ARSC)

2015 年度応用地域学会論文賞選考委員会 委員長 奥村 誠(東北大学)

応用地域学研究ならびに RURDS に掲載された学会員の論文を対象に、慎重に審議した結果、2015 年度の応用地域学会論文賞は下記の論文に授与することとした。

**授賞論文名：**CHILDCARE ACCESS AND EMPLOYMENT: THE CASE OF WOMEN WITH PRESCHOOL-AGED CHILDREN IN TOKYO

**掲載誌：**Review of Urban & Regional Development Studies Vol.26 No.1 (2014) PP.40-56

**著者：**Mizuki Kawabata (河端 瑞貴)

**選考理由：**

本論文は、東京都区部における未就学児童保育施設需給の空間的ミスマッチと、それが母親の就業成功率に与える影響について、国勢調査統計区レベルの人口データと、個々の保育施設の年齢別受け入れ数データを GIS を駆使して定量的に分析したもので、女性の就業促進環境の改善という社会的な要請の大きい政策を考えるうえで有用な論文となっている。

この分析では、児童の年齢によってサービスを提供している施設の数や分布が異なることに着目し、実際に 0-2 歳という低年齢層ほど需給バランスが大きく崩れている地域が多いことを実証的に示している。さらに、独自に収集された未就学児を持つ母親のアンケート調査データと結合してプロビットモデル分析を行った結果、希望するタイプの保育所が存在することにより、0-2 歳児を持つ母親が希望の職種に就業できる確率が 62% 上昇することを示し、これは 3-5 歳児を持つ場合の 23% の上昇に比べて大きな効果を持つことを明らかにし、今後の保育環境改善の方向性に対して有益な示唆を与えている。

本論文は、個々の保育施設への照会によるデータを含め、労力をかけて多量のデータを収集し、アドレスマッチングの適用によって一元的な空間分析を行ったもので、今後、住所や希望就業先に関する詳細な情報を含むアンケート調査と結合するなどの拡張も期待できるものとなっており、発展の余地が大きいと考えられる。

以上のように、本論文は新しい手法を駆使して現代的な課題に果敢に挑戦し、明瞭な結論を得ることに成功した模範的な論文であり、応用地域学会論文賞にふさわしいものであると認めます。

2015 年度 論文賞選考委員会

委員長 奥村 誠 (東北大学)

委員 堤 盛人 (筑波大学)

委員 高橋孝明 (東京大学)

委員 文 世一 (ARSC 会長)

委員 安藤朝夫 (ARSC 副会長)

応用地域学会論文賞の表彰は、11 月 28 日応用地域学会総会の中で行われ、著者の河端瑞貴氏に、文 世一会長から、表彰状 (盾) が授与されました。

## 7. 会員の入退会

ARSC 事務局

2015 年度総会（2015 年 11 月 28 日）において、2014 年度総会以降に入退会を申請された以下の方々の入退会が承認されました（順不同・敬称略）。

### 入会（一般 10 名）

金子英文(アジアにおける地域計量経済と環境の研究機構)、矢野貴士(広島修道大学)、藤本一郎(内閣府)、宇野公子(東京外国語大学)、滝雅人(トヨタ自動車)、金 志映(アジア経済研究所)、川本雅之(トヨタ自動車)、高原 勇(筑波大学)、菊池 正(帝京大学)、小代 薫(神戸大学)

### （学生 19 名）

陳 凱帆(名古屋大学)、小林すみれ(東京外国語大学)、王 驥(立命館大学)、小谷将之(横浜商工会議所)、遠藤圭介(日本大学)、鈴木雅智(東京大学)、安田昌平(慶應義塾大学)、佐久間 翔(東京外国語大学)、菊川康彬(筑波大学)、北村友宏(神戸大学)、吉田 惇(東北大学)、木村公哉(同支社大学)、杉本 理(慶應義塾大学)、松永博英(国土交通省)、川岸卓司(筑波大学)、麻剣英(明海大学)、福井紳也(大阪府)、郭 浪しよ(筑波大学)、黒田 翔(筑波大学)

同時に以下の方々の退会が承認されました（敬称略）。

### 退会（一般 16 名）

阿部史郎(専修大学)、矢野桂司(立命館大学)、内藤雅一(新潟大学)、花岡伸也(東京工業大学)、佐々木康朗(北陸先端科学技術大学院大学)、宮尾尊弘、横田一彦(早稲田大学)、橋本恵子(関西情報・産業活性化センター)、中野一慶(電力中央研究所)、福田公正(中央大学)、住田 潮(筑波大学)、浅見良露(久留米大学)、若井郁次郎(大阪産業大学)、中込正樹(青山学院大学)、服部圭介(大阪経済大学)、人見和美(電力中央研究所)

### （学生 4 名）

徐航天(東北大学)、池田真洋(東北大学)、大瀧逸朗(東京大学)、小坂直裕(東北大学)

### （賛助会員 1 法人）

一般財団法人日本総合研究所

この結果、2015 年 11 月 28 日現在の会員数は、下表のとおりとなりました。

（一般会員 430 人、学生会員 66 人、海外会員 6 人、賛助会員 5 法人(7 口)）

		2014 年 11 月	入会	退会	転格	2015 年 11 月
個人会員	一般会員	434	10	-16	2	430
	学生会員	53	19	-4	-2	66
	海外会員	6	0	0	0	6
	合計	493	29	-20	0	502
賛助会員		6 (8 口)	0	-1	0	5 (7 口)

## 8. 応用地域学会選挙内規の改訂

ARSC 事務局

副会長の選挙にあたって、応用地域学会会則の選挙内規では、副会長選挙の候補者3名を運営委員の投票によって選出することを規定していますが、同得票数等によって候補者を3名に絞れない場合の対応などが明記されていない。そのため、「選挙内規Ⅱ. 副会長の選挙方法」を、以下のように改正することが、総会に諮られ、議決されました。

(改正された応用地域学会会則・選挙内規は、ARSC ホームページに掲載されています。)

### <応用地域学会選挙内規(改正前と改正後)>

#### Ⅱ. 副会長の選挙方法

##### 第1条

###### <改正前>

副会長の候補者3名は、運営委員による無記名2名連記の投票による得票順で、会員の中から選出される。

###### <改正後>

副会長の候補者は、一般会員（会長経験者および現副会長を除く）の中から、運営委員による無記名2名連記の投票によって得票順に3名を選出する。また、同票数により候補者を3名に決定できない場合は、会員歴の長い者から順に3名を選出する。

##### 第2条

###### <改正前>

副会長は、上記候補者3名に対する全会員の無記名单記の投票によって選出される。選挙結果の決定につき疑義のある時は、運営委員会がこれを決定する。

###### <改正後>

副会長は、第1条の方法によって選出された候補者に対する、全個人会員の無記名单記の投票によって選出する。ただし、得票順位1位の者が複数名いる場合は、会員歴の長い者を選出する。選挙結果の決定につき疑義のあるときは、運営委員会がこれを決定する。

##### 第3条

###### <変更なし>

副会長選挙の管理は、会長の指名する2名の選挙管理委員がこれを行う。



## 9. 2016 年度会費納入のお願い

ARSC 事務局

会員データベース(2016年2月1日現在)に基づいて発行された請求書をお送りします。ご請求額を2016年4月30日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。

送られた請求額について疑義のある場合には、学会事務局まで、メールにてお問い合わせ下さい([clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org))。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の内訳(対象年度等)を必ずご記入下さい。(振込用紙は、請求書に同封して、送付いたします。)

皆様それぞれの会費納入状況は、ARSC ホームページ(<http://www.arsc.org/>)の会員ページ(会員ログイン)で、確認できます。(会員ページにログインできない方は、上記学会事務局にお問い合わせください。)

### (1) ARSC 会費

2016 年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。

また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)は、ARSC 年報(応用地域学研究)を購読される場合\$80、購読されない場合\$60 です(RURDS は、全員に配布)。なお、海外会員でも国内会員と同等とする場合は、10,000 円となります。

海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出された US ドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

### (2) RSAI (国際地域学会) 会費

2016年のRSAI会費は、 一般会員： ¥1,200円      学生会員： ¥800円 です。

### <RSAI 会費とサービス>

RSAIの会員に対するサービスは、以下のようになっております。応用地域学会を通じて、RSAI会員である方は、ARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

なお、2015年から、RSAIの会員サービスが変更となり、ジャーナル等のプリントの郵送サービスが廃止され、オンラインサービスのみとなりました。

(2015年から、従来のRSAIのプリント郵送サービスを受ける会員区分Aは無くなり、オンラインサービスを受ける会員区分Bのみとなり、従来の会員区分Aの方は、会員区分Bに変更しております。)

### <RSAIのサービス内容>

- ・ Papers in Regional Science (PiRS) 、ニュースレター等のオンラインサービス
- ・ RSAIホームページへのアクセス
- ・ RSAIの会議への参加費割引
- ・ メンバーリストへのアクセス
- ・ Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版物の詳細情報の提供

### <RSAI 会員の継続・入退会について>

ARSCを通じてのRSAIへの入退会は、年1回、11月までに、翌年のメンバーリストを提出することでなされますので、毎年10月頃に、入退会・継続、登録情報変更のご案内をいたします。

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、学生から一般への変更は、国内会員の移動転格に合わせます。

## 10. 総会報告

---

ARSC 事務局

2015年度の総会は、大会中の11月28日(土)に行われました。概要は以下の通りです。

議題及び要旨；

#### 1) 学会活動報告及び活動方針

文 世一会長より、2015年度の活動報告と今後の運営方針が示されました。

#### 2) 会員異動報告 (前掲)

#### 3) 2014年度決算 (別掲)

監査委員(塚井誠人先生(広島大学)、中島賢太郎先生(東北大学))の監査を受けた2014年度決算書が報告され、原案どおり2014年度決算が承認されました。

#### 4) 2016年度予算 (別掲)

原案どおり2016年度予算が承認されました。

#### 5) 2015年度坂下賞 (前掲)

2015年度坂下賞は、前掲のとおり東北大学の中島賢太郎先生に授賞されました。

#### 6) 2015年度応用地域学会論文賞 (前掲)

2015年度論文賞は、前掲のとおり、河端瑞貴先生の Childcare Access and Employment: The Case of Women with Preschool Children in Tokyo (RURDS 26-1)に授賞されました。

#### 7) 2016年度研究発表大会の開催について (前掲)

#### 8) 2016年度第6回アジア地域科学セミナーの開催について (前掲)

## 9) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

### ①応用地域学研究

応用地域学研究の編集委員長の大澤義明先生（筑波大学）から、現在の編集状況等について報告がありました。

- ・現在の審査中 4 本、新規論文 4 本で、編集委員 5 名体制で編集を進めている。
- ・投稿の間口は広く、査読もプラス指向で進めていくので、奮っての投稿をお願いします。
- ・現在投稿要綱の投稿原稿の作成様式を、より作成しやすくするため、改正を進めている。新年度より対応できるように進めている。（投稿原稿様式は、ARSC ホームページの JARS 投稿要綱で確認できます。）

### ②RURDS

RURDS の編集については、編集委員長黒田達朗先生（名古屋大学）から、編集体制 Editors が新しくなったこと、2015 年も、3 月、7 月、11 月と年 3 回の発刊は、順調に続けられていることなどの報告がありました。

- ・年間投稿 32 本受付け、12 本採用、ARSC 会員からは、4～5 本の投稿となっている
- ・Social Sciences Citation Index への応募を検討中である。
- ・編集体制 Editors を下記先生方に変更している。（敬称略）  
Vol.27-No.3 は、黒田達朗、中村良平、Philip McCann、鄭小平、宇野公子  
Vol.28-No.1 からは、黒田達朗、Philip McCann、鄭小平、宇野公子  
（Vol.29 からは、黒田達朗がぬける。）

## 10. 事務局だより

---

ARSC 事務局 宮本成雄

- **第29回ARSC研究発表大会**は、晩秋の慶應義塾大学三田キャンパスで開催されました。大会委員長の直井道生先生をはじめとし、慶應義塾大学の河端瑞貴先生、松浦寿幸先生、東洋大学の隅田和人先生、皆様のご協力をいただき、盛大に開催されました。皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。また、プログラム委員長を勤められた内藤徹先生（徳島大学）とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、同じく深く感謝申し上げます。
  
- **運営委員の選挙**です。2016年4月からの2年間、ARSCの運営を具体的に議論し、方向づけていただく運営委員を選出する大事な選挙です。投票は、別途ご案内のとおり、事務局から送付される選挙はがきに、運営委員にふさわしいと思われる会員3名を連記し、投函・郵送することによって行われます。**投票締め切りは、3月11日(金)（当日消印有効）**です。何かとご多忙の折かと思いますが、お忘れなきようお願い申し上げます。
  
- **会員登録情報の変更をお忘れなきようお願いいたします。**新しい年度への移り変わりの時節、勤務先の異動、就職、学生から一般への移動などで、登録住所、メールアドレス、会員区分など、皆様の会員登録の内容を変更される方も多々いらっしゃると思います。登録情報に変更が生じた場合は、速やかに、**ARSC ホームページ (<http://www.arsc.org/>) にある会員ページ「会員ログイン」**から、登録情報の変更をお願いいたします。（又は、直接<<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>>にログイン）。なお、会員ページ「会員ログイン」では、入金状況の確認や会員名簿の閲覧もできます。（ログイン ID,パスワードをお忘れの方は、事務局<[clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org)>にお問い合わせ下さい。）
  
- **地域科学に関連する分野の研究に興味**を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。入会申込は、web 上で行えます。ARSC のホームページ(<http://www.arsc.org/>)より、「新規入会」のページにアクセス、又は、直接 (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/entry/arsc>) にアクセスし、必要事項を記入し、送信してください。

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)決算(案)

収入の部	2013決算		2014予算		2014決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	5,576,717		5,076,513		5,076,513	
2.個人会費収入	4,551,181		5,175,000	700.00	4,737,007	
3. RSAI会費	254,000		242,000		214,000	
4.賛助会費収入	500,000		700,000		450,000	
5.補助金等	0		0		0	
6.大会参加費収入	882,000		860,000		846,000	
(年次大会)	882,000		860,000		846,000	
(アジア地域科学セミナー)	0		0		0	
7.大会開催寄付金	0		0		0	
8.利子収入	199		0		133	
9.雑誌販売(Back Number)	92,400		0		14,250	
10.その他	0		0			
(RURDS編集補助)	0		0			
(同上 前年度)	0		0			
収入合計	11,856,497	0	12,053,513	700.00	11,337,903	
(繰越金を除く収入合計)	6,279,780	0	6,977,000	700.00	6,261,390	
			7,016,000			

支出の部	2013年度決算		2014予算		2014決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS刊行・購読費	3,536,907		3,667,600		3,437,147	
(編集経費等)	128,700		550,000		9,900	
(購読費)	3,408,207		3,117,600		3,427,247	
2.年報刊行費	578,112		900,000		554,052	
3.大会開催費	1,165,657		1,240,000		1,393,921	
(年次大会)	1,165,657		1,220,000		1,393,921	
(アジア地域科学セミナー)	0		20,000		0	
4. RSAIへの送金	315,278		242,000		211,812	
5.坂下賞	121,000		121,000		121,600	
6.論文賞	41,580		40,000		18,576	
7. ニュースレター等印刷費	0		15,000		87,480	
8.一般事務費	382,430		310,000		413,219	
(郵送費)	112,143		120,000		111,844	
(消耗品等)	21,092		20,000		11,837	
(会議費・交通費等)	241,160		150,000		280,822	
(銀行手数料)	8,035		20,000		8,716	
9.事務局費	639,020		500,000		617,528	
(事務管理・事務員費)	460,250		320,000		433,650	
(会員管理システム費)	178,770		180,000		183,878	
10.予備費			20,400			
支出合計	6,779,984	0	7,016,000	0.00	6,855,335	
繰越金	5,076,513	0	5,037,513	700.00	4,482,568	
ドル貨円換算(手数料を除く)			39,000			
繰越金合計	5,076,513	0	5,076,513	700.00	4,482,568	

-500,204

-593,945

注; 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2015年10月13日

監査委員

塚井 誠人



監査委員

中島 賢太郎



2016 年度予算

応用地域学会2016年度予算書						
収入の部	2014年度決算		2015年度予算		2016年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	5,076,513		4,482,568		4,482,568	
2.個人会費収入	4,737,007		5,250,000	700.00	5,275,000	700.00
3.RSAI会費	214,000		162,000		188,000	
4.賛助会費収入	450,000		600,000		600,000	
5.補助金(科学研究費補助等)	0					
6.大会参加費収入	846,000		960,000		2,300,000	
(年次大会)	846,000		960,000		960,000	
(地域科学セミナー)	0				1,340,000	
7.大会開催寄付金	0					
8.利子収入	133					
9.雑誌販売(Back Number)	14,250		30,000		30,000	
10.その他 (RURDS編集補助*)						
収入合計	11,337,903		11,484,568	700.00	12,875,568	700.00
(繰越金を除く収入合計)	6,261,390		7,002,000	49,500	8,393,000	55,400
(ドル貨を含む)			7,051,500		8,448,400	
支出の部	2014年度決算		2015年度予算		2016年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	3,437,147		3,699,500		3,731,400	
(編集発行費)	9,900		550,000		550,000	
(会員購読費)	3,427,247		3,149,500		3,181,400	
2.年報刊行費	554,052		850,000		850,000	
3.大会開催費	1,393,921		1,310,000		2,640,000	
(年次大会)	1,393,921		1,300,000		1,300,000	
(地域科学セミナー)	0		10,000		1,340,000	
4.RSAIへの送金	211,812		162,000		188,000	
5.坂下賞	121,600		121,000		122,000	
6.論文賞	18,576		26,000		20,000	
6.ニューズレター等印刷費	87,480		15,000		10,000	
7.一般事務費	413,219		320,000		300,000	
(郵送費)	111,844		120,000		120,000	
(消耗品等)	11,837		20,000		15,000	
(会議費・交通費等)	280,822		160,000		150,000	
(銀行手数料)	8,716		20,000		15,000	
8.事務局費	617,528		520,000		565,000	
(事務管理・事務員費)	433,650		340,000		380,000	
(会員管理システム費)	183,878		180,000		185,000	
9.予備費			28,000		22,000	
支出合計	6,855,335		7,051,500		8,448,400	
繰越金	4,482,568		4,433,068		4,427,168	700.00
ドル貨円換算(手数料を除く)			49,500		55,400	
繰越金合計	4,482,568		4,482,568		4,482,568	
収支差	-593,945		0		0	

注1: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。